

---

# **自覚の無い特技**

茄子野郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

自覚の無い特技

### 【Zコード】

N6125Q

### 【作者名】

茄子野郎

### 【あらすじ】

実は意外な特技を持っていたB子。

それを見て私には何も無いとすねていたA子だったが…

「オラ！打て！打てよオラ！ハア！？ 何でバスなの！？ 意味分かんない。そんなんで日本代表のユニ着んなや！ ああ 腹立つわー もうやめちまえ！」

今日は大学の友人で大のサッカーマニアのA子がアパートの部屋に遊びに来ている。

ちょうど今、日本代表の試合をテレビでやっているのだ。やはりA子はサッカーを見ると性格が

激変する。

「いけっ！よし！H田！ 打て…よーーし…  
はいきたー はいっ、きたー————つ」

海外組で日本のHースのH田が得点を決めたらしい。私はあまり知らないけれど。

どうやら彼の取った虎の子の一点を守りきり日本代表が勝利を收めたようだ。

「わすがH田よねえー。世界に出るだけあるわ。H田の才能はやっぱすごいわ。」

「ハア、それに引き換え私ときたら何の才能も特技も持つてやしないわ…ハア」

「そ、そんなことないってA子…」

A子はさつきまでの興奮とは裏腹になぜかへこんでいた。

「何かお腹すいたなあ。せつかく今日泊めてもらってるから私な

んか作るね」

A子が料理を作ってくれるらしい。正直あんまりおいしくないんだけどせっかくそう言つてくれるのだから我慢しよ!」。

「冷蔵庫開けるねー」

「あー、えつと一番奥に牛肉とその右にたけのこが入ってるよ。あー、ちょっと待つて。えつと、冷蔵庫のなかで賞味期限が怪しいものは、

豆板醤の右にあるしげたけが明後日まで、くらいかな。

あと戸棚に缶詰も入ってるよ。一番古いので賞味期限は平成24年12月20日までだから

大丈夫だね」

私はさつとA子に伝えた。

冷蔵庫や戸棚をガサガサした後、なにやらA子が呆然としている。

「どうしたの?」

「B子……あんたまさか家の中にある食材の賞味期限全部覚えてるの……?」

「え、もちろんだよ?普通じゃない?」

本当に普通だと思っていたのだ。料理が好きだからなのかも知れないが、

こんなこと普通に呟できると思つていた。

「……あんたは……林家ペーなの……?」

「そうか、あんたも隠れた才能の持ち主なのか。はいはい、あんたも裏切るのか。

「どーせ、私なんてなーんの特技も持つてないですよ。はいはい。ストレス解消したいわ!

もう寝るわ!」

A子はこんな時間なのにヒステリーを起して寝てしまった。  
仕方ないので私も眠ることにした。

30分もしないうちにA子がむしゃむしゃと寝言を言つ始めた。  
A子は本当にサッカーが死ぬほど好きなようだ。夢の中でも応援  
しているのだ。

オレー・オレオレオレ…と小声でぼそぼそと呟くよくな寝言を  
言つている。

私は布団を口で抑えながら大爆笑してしまった。さすがサッカー  
マニアだなあ…

翌朝、けたたましいサイレンの音で田が覚めた。  
割と近くのようでその音が部屋の中でも響いていた。

すると、A子がもう起きていた。

「あ、A子おはよう…朝からつるさんかなあ…なんだろう、事  
故かな？割と近いけど」

「んー、3丁目で転落事故だと思つ。」

「ふーん。」私は最初A子の発言がおかしい事に気づかなかつた。  
「あー、やらなければよかつたかなあ…まあ…イライラしてたしい  
いよね。」

まあみんなどうせやつてるだらうしね…

罪悪感もあるけど今回は軽い骨折くらいにしたし、まあギリセ  
ーフつしょ。

あんたもたまーにやるでしょ？」

「え？何を？」

「だからその…一種のストレス解消よ。おまじないみたいなもの  
ね。」

え？みんなやるでしょ？

昨日布団入つてるとき聞こえなかつた？」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6125q/>

---

自覚の無い特技

2011年4月24日12時04分発行